

2015年3月13日

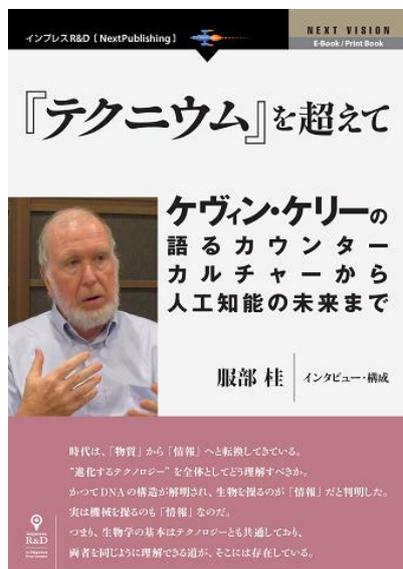
株式会社インプレスR&D

<http://nextpublishing.jp/>

進化するテクノロジーと人の関わり ケヴィン・ケリーが語った『『テクニウム』を超えて』 カウンターカルチャーから人工知能の未来まで

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井芹昌信)は、次世代型出版メソッド「NextPublishing」を使った新刊『『テクニウム』を超えて』(インタビュー・構成:服部 桂)を発売いたしました。

『『テクニウム』を超えて』ケヴィン・ケリーの語るカウンターカルチャーから人工知能の未来まで



インタビュー・構成:服部 桂

小売希望価格:電子書籍版 600円(税別)／印刷書籍版 900円(税別)

電子書籍版フォーマット:EPUB3／Kindle Format8

印刷書籍版仕様:A5判／モノクロ／本文 82ページ

ISBN:978-4-8443-9668-0

発行:インプレス R&D

<<発行主旨>>

“モノ”に価値を見出していた時代から“情報”に価値を求めるように時代が変わってきています。時代はどう変わっていくのでしょうか。また、テクノロジーの進歩に対して人はどう対応すべきなのでしょうか。それを示唆したのが、本書なのです。

人類史上初めて、テクノロジーを体系づけて捉え、その根源的な意味を「テクニウム」という言葉で表現して世界中で話題になった著作『テクニウム』（みすず書房）。その著者ケヴィン・ケリーの来日の際し、日本版の訳者で友人でもある服部 桂が進化するテクノロジーと人の関わり、また、ケヴィン・ケリーが本著作を書くに至った背景を聞き、まとめました。

<<内容紹介>>

テクノロジーという言葉をただの IT やバイオテクノロジーといった狭いジャンルに限るのではなく、言語や法律、アートなどの人間の知的活動すべてと捉え、生命自体の成り立ちや、宇宙を形成している物理現象すべてにまで拡張した「テクニウム」という概念で時代の流れを読み解いていきます。ケヴィン・ケリーが『テクニウム』を執筆した意図やネット社会の未来についても言及し、テクノロジーが単体ではなく、いかに体系づいているか、それも示しています。果たして、テクノロジーの進歩と人はどう向き合っていくべきなのか、その一つの答えが本書なのです。

<<目次>>

はじめに

§ I : 『テクニウム』をとはどういう本か

- テクノロジーの奥底に働く進化的な力
- デジタル時代の「ホール・アース・カタログ」
- 世界全体が情報で一つになるインターネット後の世界
- 人間とテクノロジーの共存

§ II : 来日講演概要

§ III : ケヴィン・ケリーとの対話

- 反テクノロジーから、写真でアートとテクノロジーの共通領域に目覚める
- 詩人ウォルト・ホイットマンの『草の葉』を読んで旅に出る
- オンラインの世界に開眼する
- ハッカー会議、WELL、サイバーソン
- テクノロジーは人間と機械が協調してコントロールするもの
- 未来からの手紙としての「WIRED」の創刊
- 『テクニウム』はどうやって書かれたか
- 今後 100 年の人類の最大の課題は「人間とは何か」という新しい定義の追求

§ IV : 対話を終えて

<<ケヴィン・ケリー、服部 桂紹介>>

Kevin Kelly (ケヴィン・ケリー)

著述家、編集者。「ホール・アース・ソフトウェア・カタログ」(1984~85)編集者。雑誌「ホール・アース・レビュー」の発行編集を歴任。1993 年には雑誌「Wired」を共同で設立。以後、1999 年まで編集長。現在は、毎月 50 万人がアクセスするサイト「Cool Tools」を運営する。ハッカー会議の共同創設者。著書『ニューエコノミー勝者の条件』(ダイヤモンド社)、『「複雑系」を超えて』(監訳者：服部桂 アスキー)『テクニウム』(みすず書房)など多数。

服部 桂 (ハットリ カツラ)

1978 年に朝日新聞社に入社。84 年から 86 年まで AT&T との通信ベンチャー (日本 ENS) に出向。87 年から 89 年まで MIT メディアラボ客員研究員。科学部記者や雑誌編集者を経てジャーナリスト学校シニア研究員。著書に『人工現実感の世界』(工業調査会)、『人工生命の世界』(オーム社)、『メディアの予言者』(廣済堂出版)。訳書に『デジタル・マクルーハン』『パソコン創世「第 3 の神話」』『ヴ

イクトリア朝時代のインターネット』『謎のチェス指し人形「ターク」』『チューリング 情報時代のパイオニア』（以上、NTT 出版）『テクニウム』（みすず書房）など多数。

<<販売ストア>>

電子書籍：

Amazon Kindle ストア：<http://www.amazon.co.jp/gp/product/B00UJNU6BG/>

楽天 kobo イーブックストア：<http://books.rakuten.co.jp/e-book/>

Apple iBookstore：<http://www.apple.com/jp/apps/ibooks/>

紀伊國屋書店 Kinoppy：<http://bookweb.kinokuniya.co.jp/indexp.html>

印刷書籍：

Amazon.co.jp：<http://www.amazon.co.jp/gp/product/4844396684/>

三省堂書店オンデマンド：<http://item.rakuten.co.jp/books-sanseido/c/0000000517/>

ウェブの書齋オンデマンド本 楽天市場店：<http://www.rakuten.co.jp/shosai/>

※各ストアでの販売は準備が整いしだい開始されます。

※一般書店では販売しておりません。

【株式会社インプレス R&D】 <http://nextpublishing.jp/>

インプレスR&Dは、デジタルファーストの次世代型電子出版事業モデル「NextPublishing」を推進する企業です。

【インプレスグループ】 <http://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:関本彰大、証券コード:東証 1部 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」を主要テーマに専門性の高いコンテンツ+サービスを提供するメディア事業を展開しています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp